事例No.	485
公表年度	H28
団体の属性	一般市
団体名	静岡県静岡県静岡市

事例区分	公営企業

タグ	・（公営企業）水道事業 ・消防・防災

事例種類	その他

事例内容・タイトル

防災機能を備えた上下水道局庁舎の建設について～人が集うまち七間町のの新たなランドマークの創造～

出典

雑誌「公営企業」先進事例紹介（平成28年11月号）

先進事例紹介



防災機能を備えた上下水道局庁舎の建設について
～人が集うまち七間町の新たなランドマークの創造～

静岡市上下水道局水道部水道企画課主査
定免　徹



1. はじめに

本市は、平成 15 年 4 月、旧静岡市と旧清水市の合併に伴い、新たに「静岡市」として誕生した後、蒲原町、由比町と合併し現在に至っています。

首都圏と中京圏の太平洋ベルト地帯上の中間にある本市は、本州のほぼ中央にも位置しています。市域面積は、1,411.90 ㎢を有し、北は 3,000m 級の山々が連なる南アルプスから、南は穏やかな駿河湾に面しており、世界文化遺産の富士山を背景に風光明美で古くから今川氏や大御所家康公が愛したまちとして栄えてきました。気候は温暖かつ穏やかで、年間を通して晴天日が多く、降雪は山間部奥地を除いてほとんど見られず、市域の 10%にも満たない平野部に人口の約 98%が集中していることが本市の特徴と言えます。

水道事業においては、旧清水市が昭和 7 年に給水を開始したのをはじめ、旧静岡市、旧蒲原町、旧由比町が、それぞれの地勢を活かした水源開発により給水区域の拡張を遂げ、合併後の現在普及率は 97%に及んでいます。

高度経済成長期に掲げられた国民皆水道の目標は、ほぼ達成した一方で、人口減少や節水型社会への移行などによる料金収入の減少、管路・施設の耐震化や老朽化対策、技術の継承など様々な課題に直面しています。

そうした状況の中、平成 28 年 4 月に「防災機能」に加えて、周辺地区の「まちのにぎわい創出機能」を

担う経営拠点として上下水道局庁舎を新設しました。この「防災」と「まちのにぎわい創出」という異なるベクトルの施策を一つにした上下水道局新庁舎建設事業について紹介させていただきます。

2. 災害等への対策について

本市では、現在、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されておりますが、1970 年代に東海地震発生の可能性が唱えられた経緯があり、早くから地震対策を進めてまいりました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災、本年 4 月の熊本地震の発生状況などからも、事前の予知は困難であり、日本列島全体が、何時どこで大規模な地震が起きてもおかしくない状況にあることから、常日頃の備えの重要性について、改めて認識したところです。また、地震のみならず、近年では地球温暖化の影響による集中豪雨の発生など異常気象も多く見受けられます。

本市においては、平成 26 年 10 月に発生した台風 18 号の大雨によって水道施設が被災し、山間部で 4 日間にわたる断水が続き、市民生活に大きな支障をきたしました。特に、土砂崩れによって主要道路交通網が麻痺したことにより、復旧や応急給水の緊急車両が迂回を余儀なくされ、現地到着に大幅な遅れが生じたほか、情報の錯綜もあって対策本部及び現地ともに混乱を招く事態に陥りました。

事後の検証においては、反省点や問題・課題の洗い出しを行い、より迅速かつ効率的な復旧や応急給水を行うためには、まず正確な情報をより速やかに収集し状況把握をすることが何よりも重要であると再認識しました。

新庁舎完成前までの上下水道局は、市庁舎の一部を賃借しており、独自の災害対策本部や他都市応援隊の受け入れスペースなどが確保できておらず、想定される南海トラフ巨大地震に対応するための拠点機能が不十分でした。そのため、合併当時から危機管理機能を備えた新庁舎建設を主要事業として掲げ取り組んでいました。



台風18 号による中継ポンプ場の被災

3. 新庁舎の建設地について

(1)　建設用地の決定

かねてより新庁舎建設候補地の選定等検討をしておりましたが、建設位置、交通アクセス、用地面積などの条件において決定に至る候補地の絞り込みができない状況にありました。そうした中、中心市街地の一角に位置する葵区七間町の映画館跡地が候補地として浮上したのです。

この映画館跡地周辺は、旧東海道に面し、昔から駿河府中における物流の拠点であり、それが明治になってさらに発展し、多くの店が軒を並べるようになりました。しかし、時代の流れにより平成 23 年に、これまで娯楽の中心として、まちのにぎわいに貢献してきた映画館 7 館のうち 6 館が閉館しました。このため地元の皆さんや多くの関係者は、このままでは、まちのにぎわいが



昭和30年代の七間町通り
（七間町町内会 提供）



まちづくりの勉強会

失われてしまうという強い危機感を持つこととなり、その跡地利用が本市の喫緊の課題となっていました。

新庁舎の有力な候補地として検討をすることになったこの映画館跡地は、緊急輸送路に面しアクセスに有利であること、市庁舎に程近く通信網が途絶えても情報共有が可能であること、映画館跡地利用が定まっていなかったことなどを踏まえて総合的な判断のもと、新庁舎建設地として決定することになりました。

4. 新庁舎建設に向けて

(1)　防災機能の強化に向けた取組

本市の水道施設の運転及び維持管理は、葵区、駿河区、清水区のそれぞれに配置された拠点施設において行われていることから、情報の一元化が困難でした。また、災害時における体制は、災害対策本部に集約される被害情報等が各班を経由するため、被害状況の把握や復旧対応に時間を要することが問題となっていました。そのため、プロジェクトチームを立ち上げ、情報の一元化やネットワークの考え方、各施設との連携など災害時に想定される状況を考慮しながら、施設の維持管理と災害時の情報集約はどうあるべきなのかについて検討を重ねました。

効率化を考えれば、庁舎で集中監視制御することが望ましいのですが、通常時の維持管理、事故時の対応などを考慮すると、庁舎では各施設の運転制御は行わず、災害時に正確な情報を迅速に収集することを基本としました。合わせて通常時の災害対策本部室の利活用等についても検討しました。

(2)　まちづくりへの取組

上下水道局は、地元との協議・調整をするにあたって先行して進められていたまちづくりの勉強会に開発事業者の立場として参加することになりました。都市計画の専門家の参画も仰ぎ、協議の結果、平成 24 年 1 月に七間町の将来像、まちづくりの方針や行政と地元の関わり方などをまとめた「七間町映画館跡地周辺地区まちづくりガイドライン」が完成しました。

このガイドラインに沿って周辺環境と調和した建物とするよう地元と協議を進めていた頃、市内で校舎の老朽化に伴い、移転等を検討していた調理・製菓専門学校から、賃貸借による新庁舎への

移転の可能性の可否について相談がありました。

学校教育法の適用を受ける専門学校であるため、校舎は基本的に自己所有地での建設が原則の中、テナントとしての入居が可能か否かについては、専門学校から文部科学省に照会をしたところ、公的機関が所有する建物で長期賃借契約が可能な場合は許可できる旨の回答が得られました。

それ以外にも他法令の条件整理などを行い、入居が可能なことを確認した後、新庁舎への移転を前提に協議を進めることになりました。専門学校の誘致については、地元から若者が集うことへの要望が出されており、大いに賛同が得られました。

しかし、そうした協議を進めている間も、七間町通りは映画館でにぎわっていた時に比べ通行者が減少し、商店等が立ち並ぶ街中にぽっかり空いた跡地がより閑散としたイメージを助長していたのです。

そこで、これを打開するため熱意ある地元の皆さんが主体となって「アトサキセブンプロジェクト」を立ち上げ、新庁舎建設工事着工までの間に跡地を利用して、仮設のコンテナハウスで七間町の歴史紹介や、七夕祭り、ハロウィンなどの各種イベントを企画し、まちのにぎわい回復に貢献しました。

5. 新庁舎の概要と役割

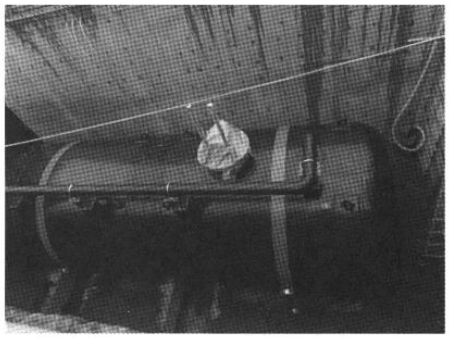
新庁舎は、地下 1 階、地上 10 階建で、地階に駐車場、1 階には専門学校が運営するレストラン・パティスリー、1、2 階に文化と産業の振興を目的とした文化・クリエイティブ産業振興センター、2 階に歯科診療所、3～7 階に上下水道局、8～10 階に専門学校という構成になっています。

(1)　危機管理機能を備えた経営の拠点

新庁舎は、南海トラフ巨大地震に対応した制振構造を採用し、敷地内には 100t の耐震性貯水槽を埋設したほか、他都市応援隊の受入れスペースや 72 時間対応の自家発電設備、3 階に災害対策本部室を設置するなど、上下水道事業の

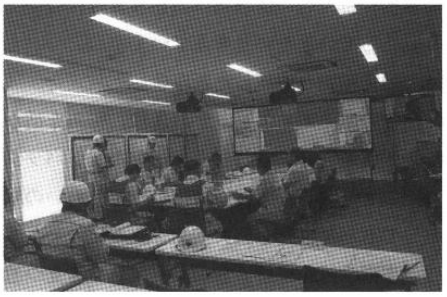


庁舎全景



100t 耐震性貯水槽





災害対策本部室（本部設置時）

防災拠点となる機能を備えました。

(2)　災害等対策の核となる災害対策本部室の機能

災害対策本部室は、通常時は上下水道事業の沿革、役割や施設概要などを紹介したパネル等を展示し、壁面を利用した大型展示物には、クイズや体験ができる工夫を施し、上下水道について学べる展示コーナーとして一般開放しています。主に小学生等児童には、学校の授業で初めて習う上下水道に関する学習の場としても活用されています。

なお、展示コーナーの展示物は、壁面全体の大型ホワイトボードや、掲示パネルの裏面がホワイトボードとして使え、災害や大きな事故が発生した際には 10 分程度で、展示コーナーから災害対策本部室への移行が可能となっています。

更に普段､PR ビデオを放映している 80 インチのモニターは災害対策本部室のサブモニターとしても使用可能とするなど、日常と非常時の使い勝手の両方に配慮したつくりとなっています。

災害対策本部室では、分散していた水道施設情報や水質情報、水道管路網情報を集約することで、水道施設全体の稼働状況などがリアルタイムで把握できるようになりました。さらに水道に関する情報だけでなく､他部局と連携し、河川、遊水池、国道を含む主要道路、トンネル、アンダーパス、港湾などの施設や津波監視カメラの映像を共有できるほか、災害発生時に被災状況等を上空からいち早く伝える消防ヘリコプターの映像も受信することができるようになりました。

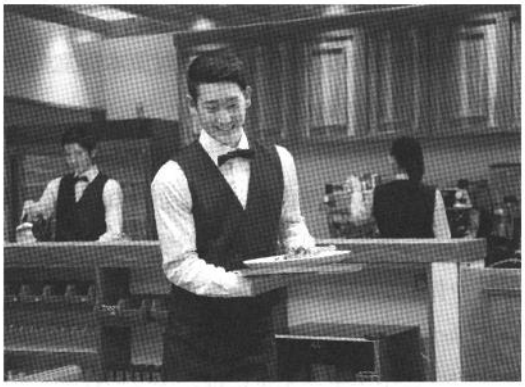
これらの情報は昇降式大型スクリーンに同時に投影でき、画面のレイアウトは自由に変更できます。そのため、必要な映像情報や施設情報のみを投影することも可能であり、災害対策本部では集約した情報を元にした迅速かつ的確な判断により、早期の応急復旧活動や応急給水活動の指示を行うことができるものと考えています。

(3)　危機管理体制の確立へ

災害時等においても水の安定供給や迅速な復旧対応を



正面玄関ピロティのタイル壁画



レストラン



イベント開催

可能とする危機管理機能を備えた経営活動拠点を整備したことにより、ライフラインを預かる事業者として、より一層市民の安心・安全を確保するための体制が整いました。

今後は、これらの機能を最大限に活かせるよう運用のブラッシュアップを行い、市長部局との連携や市民への情報提供の在り方等についても確立していきたいと考えています。

(4)　周辺環境と調和した新庁舎

庁舎の顔であるエントランスは、街角を活かした開放的なつくりとし、建物をセットバックしたことで敷地内に市民の憩いやにぎわいの場としても利用可能な公共空間を生み出すとともに、専門学校が運営するレストランを目立つ沿道側に配置しました。

外観デザインとしては、低層部は親しみやすく周辺の街路や景観に馴染むタイルや石張り等の素材と暖色を取り入れ、高層部は歩行者等に圧迫感を与えない仕様としてガラス面を採用しています。また、長年市民から親しまれ映画館のシンボル的存在であったタイル壁画の象徴的な部分が保存されていたことから、ここに映画館があった証として末永くメモリアルとなるよう、正面玄関のピロティ壁面に取り付けることにしました。

(5)　まちのにぎわいの創出

専門学校の誘致によって、生徒をはじめとした往来者が増え、生徒の実習の場でもあるレストランは大きな話題を呼び、2ヶ月先の予約も満席となるなど、まちに新たな展開とにぎわいをもたらしています。また、文化・クリエイティブ産業振興センターは、クリエイティブ産業の振興を通じ、地域の文化や経済の活性化を目的とした活動をはじめ、著名な大物の作品の展示会等を開催しています。上下水道局においても、災害時の他都市応援隊の受け入れ場所となるスペースを会議や研修会場として他部局に貸し出すなど、七間町への人の流れを増やす配慮をしています。

さらに敷地内の公共空間においては入居する事業者や地元自治会等と協働して各種イベントを開催するなど、まさに官民が連携した「人の集まるまちづくり」を推進する活動が今後も企画されており、ますますまちのにぎわい創出が期待されます。

6. おわりに

この度の新庁舎建設は、本市上下水道局に取りまして、これまでに経験のない未知の事業であり、建設用地の選定から導入施設の決定、設計・建築に至るまで、大小様々な問題や課題が立ちはだかり紆余曲折もありました。

特に、まちのにぎわい創出という役割を果たしていくことについては、上下水道局が、何故まちのにぎわい創出の役割を担うのか、また、本来業務に専念すべきではないのかという意見もありました。

しかし、市民の皆さんの期待が大きい中で、最終的に市の組織の一端を担う立場として「まちのにぎわい創出にも貢献すべき」という決断をしたのです。

確かに、上下水道局は決して得意の分野ではない重いものを背負うことになるわけですが、これをある意味ピンチとすれば、逆にチャンスに変えようというポジティブな思考のもと、これまでの市民の皆さんが持つ上下水道局のイメージを変え、事業に対する理解と関心を深めていただく絶好の機会として捉えることが重要であると考えています。

今後は、新庁舎機能をフルに活用し、上下水道事業の本旨であるライフラインの確保という使命を存分に果たしていくことはもとより、地元自治会や商店街の皆さんをはじめ、入居する事業者、関係機関等との連携を一層強め、まちのにぎわい創出機能を十分に発揮して、ここに上下水道局庁舎が建ってよかったと自他ともに認められるよう精進してまいりたいと考えています。